

3 階段

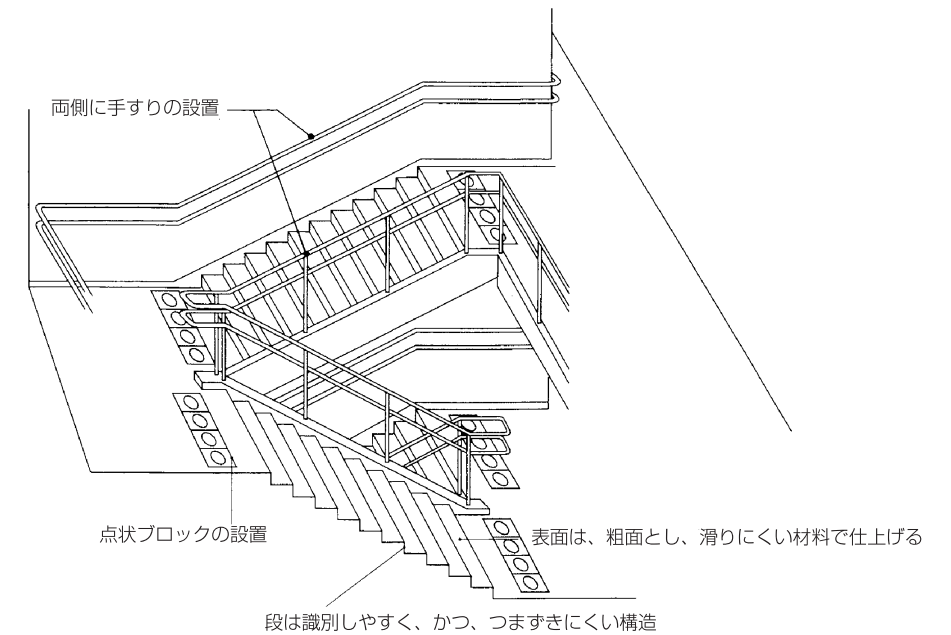
■基本的な考え方■

階段は高齢者、杖利用者、視覚障害者等の昇降にとって大きな負担になるとともに、転落等の事故の危険性が高いところであり、また、避難にも利用するため安全に対する十分な配慮が必要である。

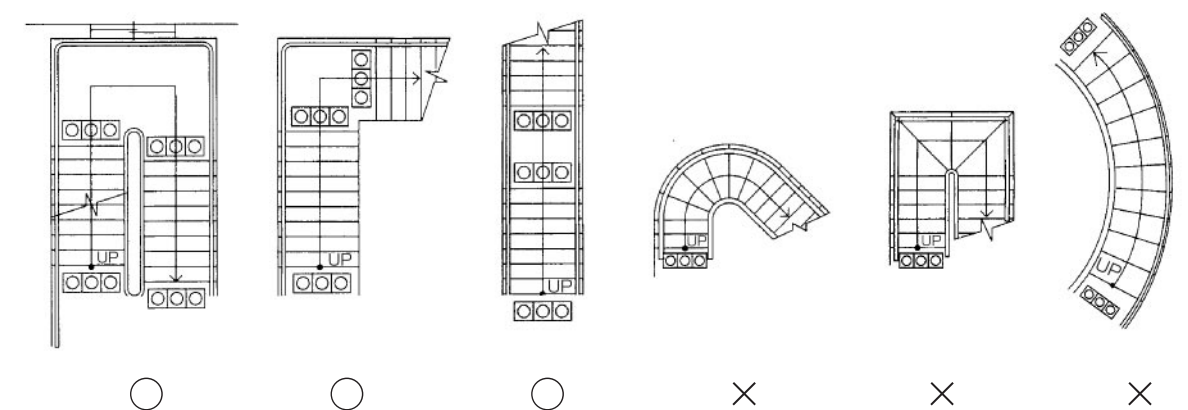
なお、階段の整備はエレベーター等の設置の有無にかかわらず重要である。

整備基準	目標となる指針
<p>3 階段</p> <p>直接地上へ通ずる出入口がない階に通ずる階段（共同住宅等にあつては、共用のものに限る。）は、次に定める構造（当該公益的施設が自動車車庫である場合にあっては、次の(1)から(5)までに定める構造）とすること。</p> <p>(1) 両側に連続した手すりを設けること。ただし、従業員のみの利用に供する部分については、片側への手すりの設置とすることができる。</p> <p>(2) 主たる階段には、回り段を設けないこと。ただし、建築物の構造上回り段を設けない構造とすることが困難な場合においては、この限りでない。</p> <p>(3) 表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げること。</p> <p>(4) 段は、踏面、けあげ及び段鼻についてそれぞれ明度の差の大きい、異なる色の使用その他の方法により段を識別しやすい構造とすること。</p> <p>(5) 段は、つまずきにくい構造とすること。</p> <p>(6) 階段の上端及び下端に近接する廊下等及び踊場の部分には、点状ブロックを敷設すること。</p>	<p>3 階段</p> <p>1 不特定かつ多数の者が利用し、かつ、直接地上へ通ずる出入口がない階に通ずる階段は、次に定める構造（当該公益的施設が自動車車庫である場合にあっては、次の(1)から(9)までに定める構造）とすること。</p> <p>(1) 幅は、内のを1.5メートル以上とすること。</p> <p>(2) けあげの寸法は、16センチメートル以下とすること。</p> <p>(3) 踏面の寸法は、30センチメートル以上とすること。</p> <p>(4) けこみの寸法は、2センチメートル以下とすること。</p> <p>(5) 両側に連続した二段の手すりを設けること。</p> <p>(6) 主たる階段には、回り段を設けないこと。</p> <p>(7) 表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げること。</p> <p>(8) 段は、踏面、けあげ及び段鼻についてそれぞれ明度の差の大きい、異なる色の使用その他の方法により段を識別しやすい構造とすること。</p> <p>(9) 段は、つまずきにくい構造とすること。</p> <p>(10) 階段の上端及び下端に近接する廊下等及び踊場の部分には、点状ブロックを敷設すること。</p> <p>2 従業員のみが利用し、かつ、直接地上へ通ずる出入口がない階に通ずる階段は、両側に連続した手すりを設けるとともに、仙台市ひとにやさしいまちづくり条例施行規則（平成8年仙台市規則第63号。以下「規則」という。）別表第2イの表〔建築物〕3の項〔階段〕(2)から(6)までに定める構造（当該公益的施設が自動車車庫である場合にあっては、同項(2)から(5)までに定める構造）とすること。</p>

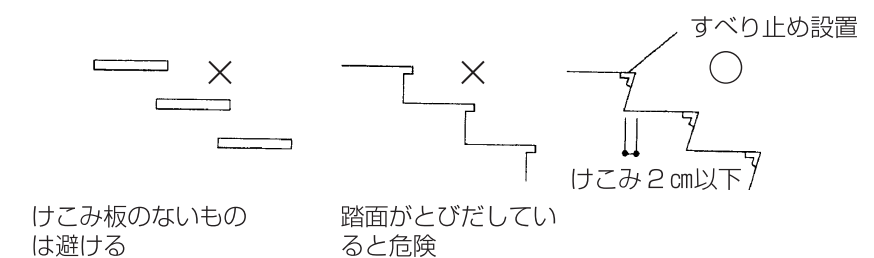
階段の整備例（図1）



階段の形式



けあげ、踏面の形状（つまずきにくい構造例）（図2）

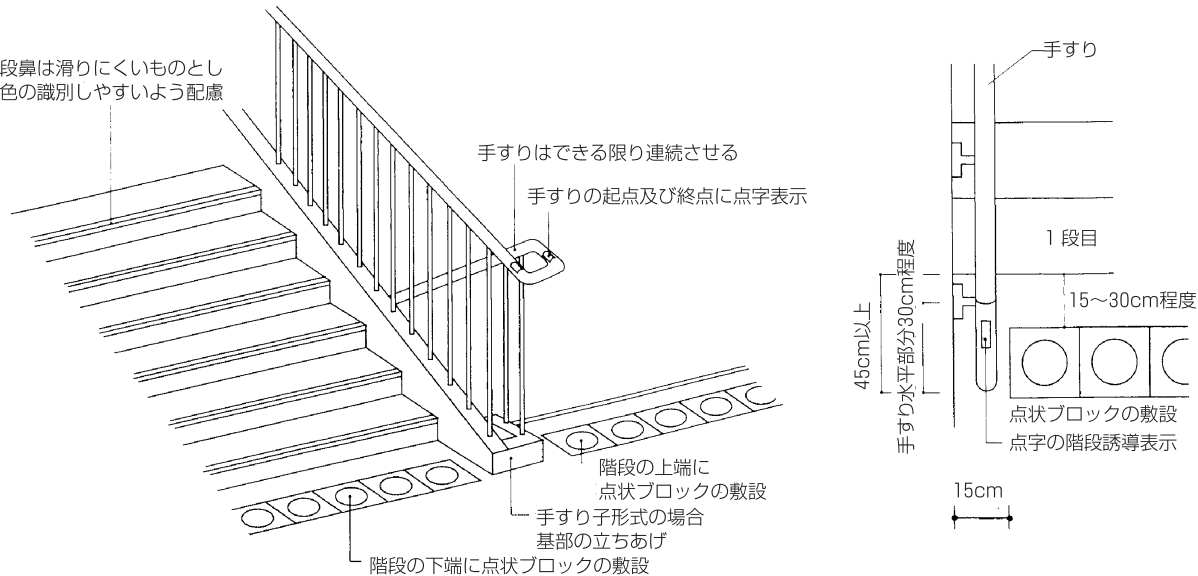


整備基準の解説		
●整備の対象 公益的施設に設けられたすべての階段を高齢者、杖利用者、視覚障害者等が利用できる構造とする。 ○自動車車庫について、階段の上端、下端の点状ブロックの敷設を免除しているのは、視覚障害者には運転手等の視覚障害者以外の者が必ず同行することが見込まれるためである。		
項 目	解 説	
(1)手すり	○幅員が3mを超える場合には、中央にも設置する。ただし、高さが1m以下の場合はこの限りでない。 ○廊下等、踊場等と連続して設ける。「配慮事項③手すり（P.88）」参照	
(2)回り段	○回り段は、踏面幅が内側と外側で異なり、視覚障害者が段を踏み外す危険があるので避ける。また、歩行困難者にとっても、回り段は昇降動作と回転動作が同時に発生し危険を伴うので好ましくない。ただし、小規模な2階建の店舗等で、当該階段以外に階段を設けられず、スペースの関係上回り段を設けざるを得ないような場合等は許容することとした。 ○主たる階段とは、施設内の移動において主に利用される可能性の高いものを指し、原則として、屋内階段の全てが該当する。	
(5)段の構造	○けこみ板は杖や足の落ち込みを防止するために必ず設けるとともに、ひっかかりにくい構造とする。 ○段鼻を突き出すとつま先がひっかかりやすいので避ける。	
(6)標示	○「配慮事項④視覚障害者誘導用ブロック（P.90）」参照	

目標となる指針の解説		
●整備の対象 不特定かつ多数の者が利用する階段を高齢者、杖利用者、視覚障害者等が利用できる構造とする。		
項 目	解 説	
(1)幅	○階段の内のり幅150cmは、松葉杖利用者が円滑に上下できる寸法であり、ここでの「内のり」の解釈は杖の移動上支障となる手すり子等が設けられていない場合には手すり部分も含めてよいこととする。	

配慮事項		
項 目	解 説	
構造	○同一位置の階段では、各階を通じけあげ及び踏面の寸法を同一とする。 ○直階段は、転落防止のために踊場を適宜設ける。 ○階段の昇り口、降り口の床に点状ブロックを設けるとともに、仕上げを変える等して注意喚起をする。 ○階段下のスペースは、視覚障害者が衝突しないように措置を講じる。	
手すりの構造	○手すり子形式の階段は、杖先が滑り落ちないように両側の側桁に5cm以上の立ち上がりを設ける。 ○「配慮事項③手すり（P.88）」参照	
仕上げ	○段鼻の滑り止めは杖が滑るので、金属製のものは避ける。	

視覚障害者等に配慮した整備例 (図3)



望ましい階段の寸法

